# 1 導入編

Expressワークステーションや添付のソフトウェアの特長や導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順について順を追って説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。


Expressワークステーションの特長(→2ページ) ..... Expressワークステーションの特長や添付(または別売品)のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。

導入のポイント(→4ページ) ..... Expressワークステーションをご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。

お客様登録(→10ページ) ..... お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひお客様登録をしてください。

セットアップ(→11ページ) ..... Expressワークステーションをお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。

再セットアップ(→33ページ) ..... ハードディスクからオペレーティングシステムを起動できなくなった場合にハードディスクの内容を出荷時の状態に戻してから再セットアップする方法について説明しています。

# Expressワークステーションの特長

お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。

## 高性能

- Intel® Pentium® III Xeon™ Processor (866MHz)搭載
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース(100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス

## 高信頼性

- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- パスワード機能
- 内蔵ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出)
- メモリ縮退機能
- CPU縮退機能
- ウォッチドッグタイマ機能

## 保守機能

- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

## 豊富な機能搭載

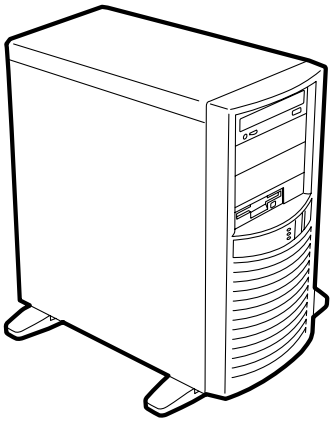
- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(LINE-IN/LINE-OUT)搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- Ultra2 Wide SCSI/Ultra Narrow SCSI対応

## 省電力機能

スリープ機能(Windows 2000で使用可能。オプションボードによっては機能しないものもある。)

## 管理機能

- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager



## 自己診断機能

- Power On Self-Test(POST)
- テスト診断(T&D)

## すぐに使える

- Microsoft® Windows NT®Workstation 4.0/Microsoft® Windows® 2000 Professionalインストール済み(セットアップの際に使用するオペレーティングシステムを選択します)

## 便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- SETUP(BIOSセットアップユーティリティ)
- SCSI Configuration Utility(SCSIデバイスユーティリティ)

## 拡張性

- PCIバス×3スロット
- AGPバス×1スロット
- 最大2GBのメモリ(DIMM×4スロット)
- USB対応(対応したドライバが必要)
- 最大2マルチプロセッサまで搭載可能。

前ページに示すとおりExpressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした最適なシステムが構築できます。



## 本体管理

Expressワークステーションのハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能／信頼性機能を提供します。

## ストレージ管理

内蔵のハードディスクと外付けのDATなどのバックアップ装置機能を提供します。
テープ装置へのデータのバックアップはWindows NTやWindows 2000標準のバックアップアプリケーションの他にARCserve、BackupEXEC、NetBackupなどによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。

## ネットワーク管理

クライアント／サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ／ワークステーション、ルータ、Hubなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。
なお、ルータやHubの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

## 電源管理

商用電源のトラブルは、ワークステーションを停止させる大きな原因のひとつです。
停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。
無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリから電源を供給。システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに、電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによるコンピュータの自動・無人運転も実現することもできます。
Expressワークステーションでは、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)とAPC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置を提供しており、ESMPRO/UPSController、PowerChute *plus* で管理・制御します。

# 導入のポイント

Expressワークステーションを導入するにあたって重要なポイントを説明します。

## システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認してください(添付の構成品表を参照してください)。万一、足りないものや破損しているものがあったときはお買い求めの販売店に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望まれます。
添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressワークステーション、およびExpress5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。
ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

## 電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

### ① ハードウェアのセットアップ

Expressワークステーションを箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順でExpressワークステーション背面のコネクタに接続します。
モデルによっては、グラフィックスアクセラレータボードが別売のものがあります。ボードを取り付けてからケーブルを接続してください。

**重要**

**オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、グラフィックスアクセラレータボードを除く内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。**

## ② オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションにはWindows 2000 Professional 日本語版とWindows NT 4.0 Workstation 日本語版がすでにインストールされています。そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています(使用するオペレーティングシステムは初めて電源をONにした後に選択します)。

詳しい手順は11ページで説明しています。

**重要** **オペレーティングシステムの選択で、選択しなかった方のオペレーティングシステムをExpressワークステーションにインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入しなければいけません。**

**[Windows 2000 Professional、またはWindows NT 4.0 Workstationのシステムを修復する場合は．．．]**

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

- **システムの修復**

  システムの修復とは、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損した場合に、セットアップブートディスクを使用してシステムを起動できる状態にするものです。

  破損したファイルが修復対象となっている場合は、各種ユーティリティやユーザー情報なども保存された状態でシステムを起動できるようにすることができますが、システムの修復を行っても、OSが完全な状態で起動されるとは限りません。その場合は次に説明する「再セットアップ」でシステムを復旧させてください。

  システム修復の方法については「運用・保守編」で説明しています。

- **再セットアップ**

  システムの破損などのが原因でOSを起動できなくなった場合などに、バックアップCD-ROMを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。

  バックアップCD-ROMを使用して出荷時の状態に戻ったハードディスクは、必要最小限のセットアップが行われるため、再セットアップを行う前の各種ユーティリティやユーザー情報などはすべて失われてしまいます。各種ソフトウェアについては再セットアップ後、インストールし直してください。

  バックアップCD-ROMを用いた方法については33ページで説明しています。

## ③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリやハードディスクなどの内蔵デバイスを取り付け、プリンタなどの周辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合は、周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

## ④　障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定、ワトソン博士の設定を行います。
また、システムを修復する際に使用する「セットアップブートディスク」の作成方法についても説明しています。「セットアップブートディスク」は何らかの原因でOSが起動できなくなった場合に必要となるディスクです。必ず作成してください。
詳しくは25ページをご覧ください。

**NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知、または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。**

## ⑤　管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします(ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください(インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています)。ESMPRO/ServerManagerはExpressワークステーションにインストールして使用することもできます。

**添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。**

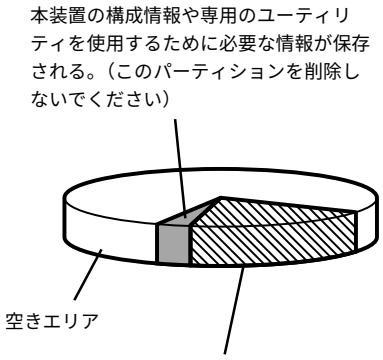
## ⑥　システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のユーティリティを使用してExpressワークステーションのシステム情報のバックアップをとります。

装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアすることで故障前と同じ状態でExpressワークステーションを使用することができます。

## 購入時のハードディスクの状態と保守用パーティション

Expressワークステーションに標準装備のハードディスクにはMicrosoft Windows 2000 Professional/Microsoft Windows NT Workstation 4.0と保守用ユーティリティがあらかじめインストールされています。
オペレーティングシステムのパーティションサイズはオペレーティングシステムのセットアップの時に設定できます。
また、約16MBほどの「保守用パーティション」がもうけられています。
「保守用パーティション」とは、Expressワークステーション特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションで、16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します（保守用パーティションは、1度作成されると以降は作成されません）。




**重要**

- **オペレーティングシステムはセットアップの際にどちらを使用するか選択します。セットアップの完了後は、選択したオペレーティングシステムで起動します。オペレーティングシステムの選択で、選択しなかった方のオペレーティングシステムをExpressワークステーションにインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入しなければいけません。**
- **保守用パーティションは、その存在がOS上から見えることがありますが、構成情報を保持するためにもこのパーティションを削除しないでください。**

Expressワークステーションのセットアップの際に保守用パーティションへ自動的にインストールされるユーティリティは、「システム診断ユーティリティ」と「オフライン保守ユーティリティ」です。

## メモリの縮退機能

POST(Power On Self-Test:電源ON後の自動診断プログラム)でメモリ(DIMM)の故障を検出すると自動的に故障したDIMMを切離して運用する機能です(故障したDIMMは早めに交換することをお勧めします)。
縮退機能は、DIMMを増設し、2枚以上のDIMMでの運用中に、いずれか1つのDIMMで障害が発生した場合に有効です。
DIMMが故障するとメモリ容量が少なくなり、システムの動作速度が遅くなったり、アプリケーションを動作させることができなくなったりすることがあります。

DIMMの故障は、POSTを実行している時に表示される画面や、BIOSセットアップユーティリティ、ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PC上で確認することができます。
障害の発生したDIMMを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動し、「Advanced」メニューの「Memory Reconfiguration」で［Clear DIMM Errors］を選択します。

## CPUの縮退機能

POST(Power On Self-Test:電源ON後の自動診断プログラム)でCPUの故障を検出すると自動的に故障したCPUを切離して運用する機能です(故障したCPUは早めに交換することをお勧めします)。
縮退機能は、CPUを増設し、2つ以上のCPUでの運用中に、いずれか1つのCPUで障害が発生した場合に有効です。
CPUが故障すると、システムの動作速度が遅くなったり、アプリケーションを動作させることができなくなったりすることがあります。

CPUの故障は、POSTを実行している時に表示される画面や、BIOSセットアップユーティリティ、ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PC上で確認することができます。また、障害の発生したCPUを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動し、「Advanced」メニューの「CPU　Reconfiguration」で[Clear CPU Errors]を選択します。

## ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。
ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「AC-LINK」を[Stay Off]に、「Wake On LAN」を[Enabled]に設定します。

## UPS接続時のポイント

Expressワークステーションの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSからExpressワークステーションの電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用することができます。
このAC-LINK機能を使用してExpressワークステーションの電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「AC-LINK」を[Power On]に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

## ストレージ機能構築のポイント

本装置では、本体のNarrow-SCSIコネクタや別売品のSCSIコントローラボードを搭載することにより外付けのバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windows2000バックアップツール（Windows 2000標準）
- NTBackup（Windows NT標準）
- ARCserve（コンピュータ・アソシエイツ社）
- BackupExec（ベリタス社）
- NetBackup（ベリタス社）

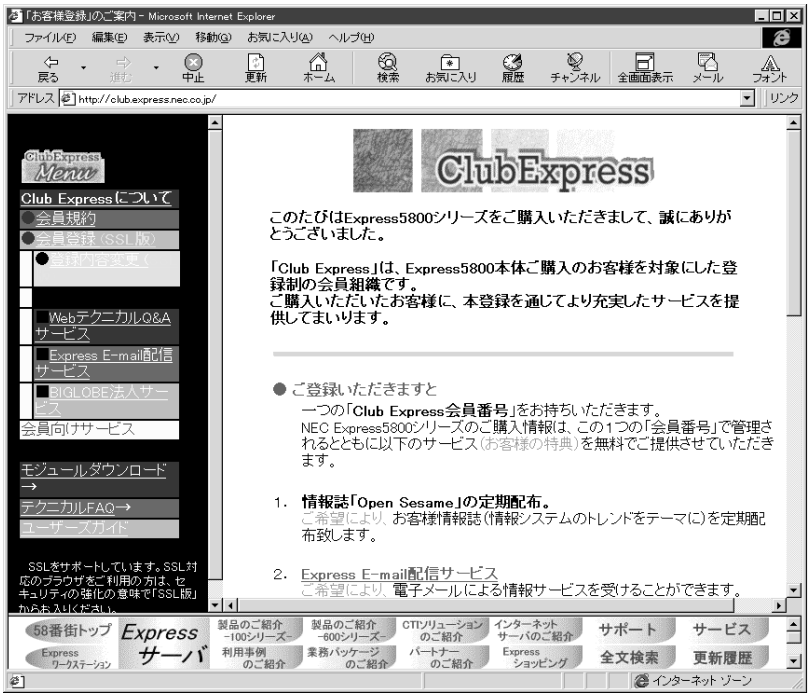
DAT装置をご利用いただく場合、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ／リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。

# お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

**http://club.express.nec.co.jp/**

にてご登録ください。




「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

# セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は「再セットアップ」を参照してください。



## 1　ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. グラフィックスアクセラレータボードが別売のモデルの場合は、別途購入したオプションのグラフィックスアクセラレータボードを取り付ける。（→76ページ）

   **重要**

   **その他の内蔵デバイスはオペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。**

2. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所（環境）に設置する。（→46ページ）
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルをExpressワークステーションに接続する。（→48ページ）

   **重要**

   **プリンタなどの周辺機器はオペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続してください。**

4. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する。（→48ページ）
5. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

   90ページに示す設定例を参考にしてください。

## 2　オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、Windows 2000 ProfessionalとWindows NT 4.0 Workstationがお客様の個別情報を設定する前の状態でインストール済みです。
ExpressワークステーションではWindows 2000 Professional、またはWindows NT 4.0 Workstationのいずれかのオペレーティングシステム1つを使用できます。初めてExpressワークステーションの電源を入れたときは使用するオペレーティングシステムを選択してください。
添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用して、オペレーティングシステムを選択し、お客様の個別情報を設定してください。

# セットアップをはじめる前に

セットアップを始める前に次の点について注意してください。

- **ハードディスクの増設、およびプリンタなどの周辺機器の接続をしない**

  選択したOSが起動されるまで、ハードディスクの増設やプリンタなどの周辺機器の接続などはしないでください。

  これらの周辺機器を本体と同時に購入された場合は、セットアップが完了してから、あらためてオプションの機器に添付された説明書を参照して増設、または接続してください。

  ただし、CPU、およびメモリ(Windows NT 4.0をインストールする場合は3GBまで)はセットアップ前に取り付けても問題はありません。

- **途中で電源をOFFしない**

  セットアップの途中で電源をOFFすると故障の原因となります。

- **オペレーティングシステムの選択について**

  初めてExpressワークステーションの電源をONにするときには、使用するオペレーティングシステム(Windows 2000 Professional、またはWindows NT 4.0)を選択することができますが、Windowsのセットアップ終了後にオペレーティングシステムを変更したい場合は、別途オペレーティングシステムを購入していただく必要があります。

| チェック欄 | 選択したオペレーティングシステム |
|---|---|
| | Microsoft Windows 2000 Professional |
| | Microsoft Windows NT 4.0 Workstation |

  再セットアップする場合もここでチェックしたオペレーティングシステムを選択してください。

- **最初に電源をONにする前に・・・**

  必ずEXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてから、Expressワークステーションを起動してください。詳しい手順はこの後の「セットアップの開始」で説明しています。

**重要**

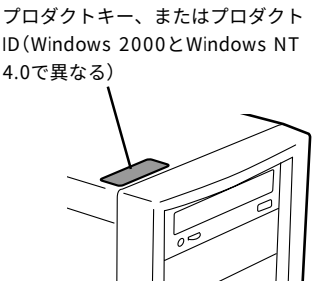
**EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットせずに電源をONにすると、以下のメッセージが表示されます。**

```
Non-System disk or disk error.
Replace and press any key when ready.
```

**CD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERをセットして再起動してください。**

- **セットアップで必要なもの**

  EXPRESSBUILDER CD-ROMと添付のフロッピーディスク(1枚)の他に「プロダクトキー」、または「プロダクトID」をメモしておいてください。メモした内容はセットアップの際に必要となります。



# セットアップの開始

初めて電源をONにしてセットアップをするときは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の起動メニューから「シームレスセットアップ」を選択します。
シームレスセットアップは、あらかじめセットアップ開始前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存しておき、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



重要

- **セットアップを開始する前にExpressワークステーションで使用するオペレーティングシステム（Windows 2000 ProfessionalかWindows NT 4.0 Workstation）を決めておいてください。セットアップの途中でオペレーティングシステムの選択をするステップがありますが、選択しなかったオペレーティングシステムは別途購入しない限りインストールすることはできません。**
- **セットアップを開始したら、完了するまでExpressワークステーションの電源をOFFにしないでください。**

ヒント

- **「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。**
- **セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。お客様で用意する場合は、MS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスク（1枚）を用意してください。**
- **Expressワークステーションの他にWindows 95/98、またはWindows NT 3.51以降で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします（128ページ参照）。**

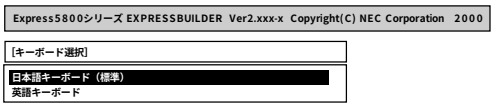
次の手順でExpressワークステーションを起動して、セットアップを始めます。

1. ディスプレイ装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
2. ExpressワークステーションのCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDERと印刷されたCD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセット（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）するか、電源をOFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
4. Expressワークステーションで使用するキーボードを選択する。

   EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、キーボードの選択メニューが現れます。 このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。

   しばらくすると「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

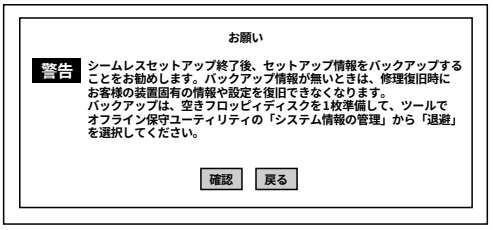


5. [シームレスセットアップ]をクリックする。

「お願い」が表示されます。

6. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタンをクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。




7. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックする。

> **チェック**
>
> 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックしてください。

**[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]**

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。

> **チェック**
>
> 選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような誤りがある場合(たとえばExpressPicnic Ver.3以前において作成した「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクが正しいか確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は［確認］ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、［ｽｷｯﾌﾟ］ボタンをクリックする。

**重要**

**オペレーティングシステム(OS)の選択は1回だけです。再インストールの時にここで決めたOS以外のOSをインストールすることはできません(たとえば、ここでWindows NT 4.0 Workstationを選択してインストールしたが、その後、「再セットアップ」の時にはWindows 2000 Professionalでインストールしたなど)。一度選択したOS以外のOSをインストールするためには別途インストールしたいOSを購入してください。**

<Windows 2000 Professionalを選択したセットアップ情報ファイルの場合>

［確認］ボタンをクリック → 「オペレーティングシステムのセットアップ(次ページ)」の手順1へ進む
［ｽｷｯﾌﾟ］ボタンをクリック → 「オペレーティングシステムのセットアップ(次ページ)」の手順2へ進む

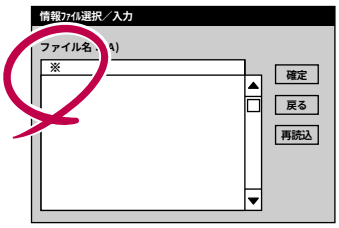
<Windows NT 4.0 Workstationを選択したセットアップ情報ファイルの場合>

［確認］ボタンをクリック → 「オペレーティングシステムのセットアップ(21ページ)」の手順1へ進む
［ｽｷｯﾌﾟ］ボタンをクリック → 「オペレーティングシステムのセットアップ(21ページ)」の手順2へ進む

**［ブランクディスクをセットした場合］**

① リストボックスの「※」をクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

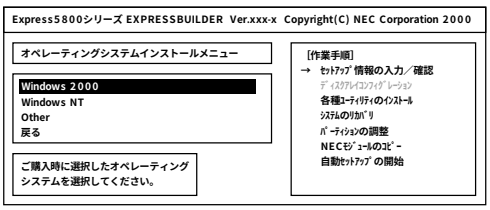



② ファイル名を入力する。

［オペレーティングシステムインストールメニュー］が表示されます。

③ Expressワークステーションで使用するオペレーティングシステムを選択する。

［Windows 2000］か［Windows NT］のいずれかを選択してください。




［Windows 2000］を選択 →次ページへ進む
［Windows NT］を選択 →21ページへ進む

**重要**

**オペレーティングシステム(OS)の選択は1回だけです。再インストールの時にここで決めたOS以外のOSをインストールすることはできません(たとえば、ここでWindows NT 4.0 Workstationを選択してインストールしたが、その後、「再セットアップ」の時にはWindows 2000 Professionalでインストールしたなど)。一度選択したOS以外のOSをインストールするためには別途インストールしたいOSを購入してください。**

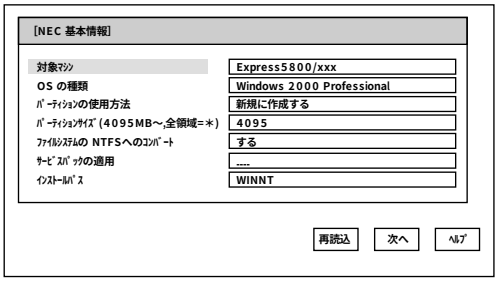
# Windows 2000 Professionalのセットアップ

13ページの「セットアップの開始」でMicrosoft Windows 2000 Professionalをオペレーティングシステムとして選択した場合のセットアップ手順と注意事項について説明します。

## オペレーティングシステムのセットアップ

1. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

   [NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される［次へ］、［戻る］、［ﾍﾙﾌﾟ］ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。




**重要**

- **「パーティションの使用方法」は「新規に作成する」で固定です。変更できません。**
- **「パーティションサイズ」で設定できる値は「4095MB」～「999999MB」です。**
- **「パーティションサイズ」で「4095MB」以外の値を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。**
- **「インストールパス」の設定は「winnt」で固定です。変更できません。**
- **ネットワークの設定はできません。以下の状態でセットアップされます。**
  - **TCP/IP（DHCP使用）**
  - **SNMPサービス（デフォルト設定）**
- **設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。**
- **前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。**

**ヒント**

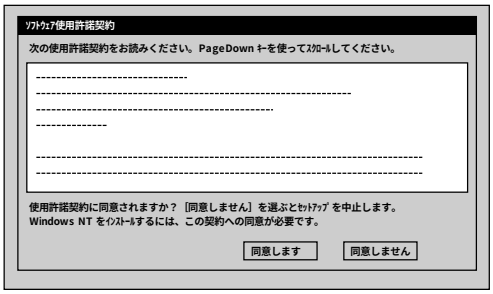
**［NEC基本情報］画面にある［再読込］ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。［再読込］ボタンは、［NEC基本情報］画面にのみあります。**

設定を完了すると自動的に再起動します。

2. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出して［OK］ボタンをクリックするか、<Enter>キーを押す。

   ［ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約］画面が表示されます。

3. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。




**重要**

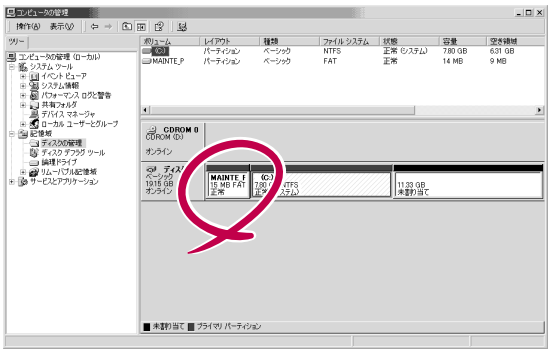
**同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。**

Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。
[Windows2000の紹介]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

**重要**

- **ディスク構成について**

  **セットアップを完了したExpressワークステーションのハードディスク上に、「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。この領域は構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。**



- **セットアップで作成した「セットアップパラメータFD」は大切に保管しておいてください。再セットアップの時にこのディスクを使用すると前回と同じ設定で自動的にセットアップすることができます。**
- **30ページを参照してWindows 2000セットアップブートディスクを作成しておくことをお勧めします。**

## デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

- **ディスクドライバ(SCSI)**

  標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- **ネットワークドライバ**

  標準装備のネットワークドライバは、購入時にインストール済みです(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

インストールされたネットワークドライバは、転送速度/Duplexモードの設定が必要です。

① スタートメニューから[設定]をポイントし[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックする。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ダイアログボックスが表示されます。

② [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

[ローカル エリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

③ [構成]ボタンをクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

④ [詳細設定]タブをクリックし、[Link Speed &Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。

⑤ ネットワーク アダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

⑥ [ローカル エリア接続のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加／削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

- **グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)**

Expressワークステーション、またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストール後、必要に応じて表示の設定などをしてください。

- **3モードフロッピードライバ**

Windows 2000では、2モードのフロッピードライバ(FAT 1.44MBと720KBフォーマットのフロッピーディスクが使用可能)が標準でインストールされます。

3モードのフロッピードライバ(FAT 1.44MB、1.2MB、720KB、640KBフォーマットのフロッピーディスクが使用可能)を使用したい場合は、Windows 2000のインストールが終了した後にドライバをアップデートしてください。

また、システムを修復したときやシステムを再セットアップしたときにもドライバをアップデートしてください。

① スタートメニューから[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。

② [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し、[デバイスマネージャ]をクリックする。

デバイスの一覧が表示されます。

③ デバイスの一覧より[フロッピーディスクコントローラ]、[標準フロッピーディスクコントローラ]の順でダブルクリックする。

[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

④ [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]ボタンをクリックする。

[デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

⑤ [デバイスドライバのアップグレードウィザード]で[次へ]ボタンをクリックし、「ハードウェアデバイスドライバインストール」ダイアログボックスを表示する。

⑥ 「ハードウェアデバイスドライバインストール」ダイアログボックスで「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」ボタンをクリックし、[次へ]ボタンをクリックする。

[デバイスドライバの選択]ダイアログボックスを表示します。

⑦ [ディスク使用]ボタンをクリックする。

[フロッピーディスクからインストール]ダイアログボックスが表示されます。

⑧ 「C:\NECINST\UPDATE\FLOPPY\NS」と入力し[OK]ボタンをクリックする。

「C」はシステムドライブを指定してください。
モデルに「NEC 3mode floppy disk controller」が表示されます。

⑨ [次へ]ボタンをクリックする。

[デバイスドライバのインストール開始]ダイアログボックスが表示されます。

⑩ [次へ]ボタンをクリックする。

ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピー実行中に、[デジタル署名が見つかりませんでした]のダイアログボックスが表示されます。

⑪ [はい]ボタンをクリックする。

コピー処理が終了し、[デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了]ダイアログボックスが表示されます。

⑫ [完了]ボタンをクリックする。

[NEC 3mode floppy disk controllerのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

⑬ [閉じる]ボタンをクリックする。

[システム設定の変更]ダイアログボックスが表示されます。

⑭ [いいえ]ボタンをクリックする。

⑮ デバイスの一覧より[フロッピーディスクドライブ]、[フロッピーディスクドライブ]の順でダブルクリックする。

[フロッピーディスクドライブのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

⑯ [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]ボタンをクリックする。

[デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

⑰ 以降、[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ]と同様の操作で実行し、[NEC 3mode floppy disk driveのプロパティ]ダイアログボックスが表示されるまで作業を続ける。

中で表示されるモデルは「NEC 3mode floppy disk drive」と表示されます。

⑱ [NEC 3mode floppy disk driveのプロパティ]ダイアログボックス]で[閉じる]ボタンをクリックする。

[システム設定の変更]ダイアログボックスが表示されます。

⑲ [はい]ボタンをクリックしシステムを再起動する。

再起動後、3モードフロッピードライバが有効となります。

- **サウンドドライバ**

  サウンドドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

## システムのアップデート

システムのアップデートは、Expressワークステーション購入時には自動で適用されていますが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合
- システムの構成を変更した場合(CPUを増設したときなど)

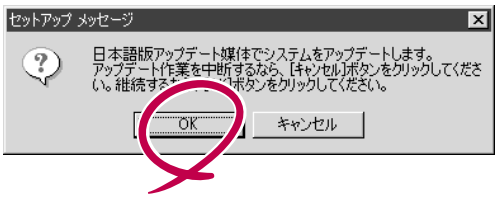
次の手順に従ってシステムをアップデートしてください。

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。
2. エクスプローラから「C:\NECINST\UPDATE\update.exe」を実行する。

   セットアップメッセージが表示されます。
3. システムのアップデートを継続する場合は、[OK]ボタンをクリックする。

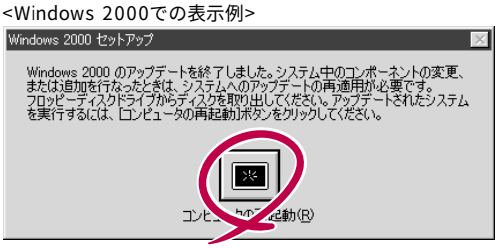
   セットアップダイアログボックスが表示されます。

<Windows 2000での表示例>




4. [コンピュータの再起動]ボタンをクリックしてシステムを再起動する。

<Windows 2000での表示例>



# Windows NT 4.0 Workstationのセットアップ

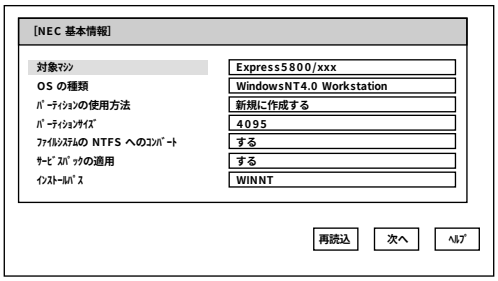
13ページの「セットアップの開始」でMicrosoft Windows NT 4.0 Workstationをオペレーティングシステムとして選択した場合のセットアップ手順と注意事項について説明します。



## オペレーティングシステムのセットアップ

1. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

   [NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。




**重要**

- **「パーティションの使用方法」は「新規に作成する」で固定です。変更できません。**
- **「パーティションサイズ」で設定できる値は「4095MB」か「8000MB」のいずれかです。**
- **「パーティションサイズ」で「8000MB」を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。**
- **「インストールパス」の設定は「winnt」で固定です。変更できません。**
- **設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。**
- **前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。**

**ヒント**

**[NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。**

設定を完了すると自動的に再起動します。

2. Update媒体のモジュールをコピーする。

   メッセージに従ってインストールするUpdate媒体をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

**ヒント**

**[Update媒体の適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。**

**チェック**

「Update媒体」とは、弊社が発行する不具合吸収用のフロッピーディスクのことです。適用すべき媒体がありましたら、予防保守のため適用してください。なければ必要ありません。

3. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出す。

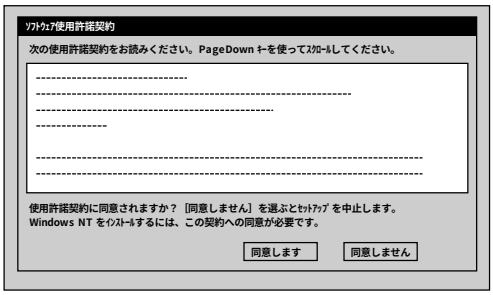
4. 「サービスパック」のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

ヒント

**[ｻｰﾋﾞｽﾊﾟｯｸの適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。**

[ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約]画面が表示されます。

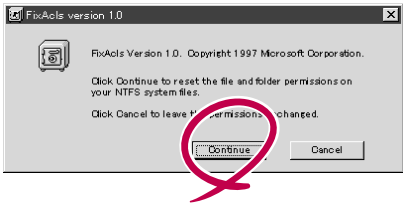
5. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。




重要

- **同意しないと、セットアップは終了し、Windows NTはインストールされません。**
- **ファイルシステムをNTFSにコンバートした場合**

  **ファイルシステムをNTFSにコンバートしたときは、必ずAdministrator権限を持ったユーザでログオンしてください。また、ログオン後に[FixAcls version 1.0]ダイアログボックスが表示されます。必ず、[Continue]ボタンをクリックしてください。**




[WindowsNTへようこそ]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

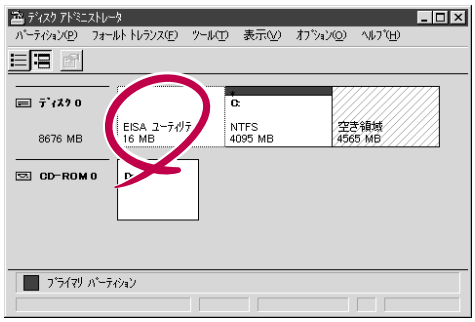
チェック

Windows NT 4.0へはローカルのadministratorとしてログオンします。

重要

- **ディスク構成について**

  **セットアップを完了したExpressワークステーションのハードディスク上に、「EISA ユーティリティ」と表示された領域が存在する場合があります。この領域は構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。**




- **セットアップで作成した「セットアップパラメータFD」は大切に保管しておいてください。再セットアップの時にこのディスクを使用すると前回と同じ設定で自動的にセットアップすることができます。**
- **あらかじめWindows NT 4.0セットアップブートディスク（30ページ参照）や、Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER（29ページの「チェック」参照）を作成しておくことをお勧めします。**

## デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

- **ディスクドライバ(SCSI)**

  標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- **ネットワークドライバ**

  標準装備のネットワークドライバは、購入時にインストール済みです(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。転送速度やDuplexモードの設定が必要ですので HUB の設定値と同じ値に設定してください。また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加／削除してください。

- **グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)**

  Expressワークステーション、またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストール後、必要に応じて表示の設定などをしてください。

- **サウンドドライバ**

  サウンドドライバは以下の手順でインストールします。

  ① スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

  [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

  ② [コントロールパネル]ダイアログボックスの[マルチメディア]アイコンをダブルクリックする。

  ③ [マルチメディアのプロパティ]ダイアログボックスの[デバイス]タブをクリックし、[追加]ボタンをクリックする。

  ④ [追加]ダイアログボックスの[ドライバの一覧]ボックスから「一覧にない、または更新されたドライバ」を選択し、[OK]ボタンをクリックする。

  ⑤ [配付ファイルのコピー元]テキストボックスに、「C:\WINNT\SOUND\YDSXG」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

  [一覧にない、または更新されたドライバの追加]ダイアログボックスの[ドライバの一覧]ボックスにドライバの一覧が表示されます。

  ⑥ [YAMAHA DS- XG Audio Driver(Japanese)]を選択し、[OK]ボタンをクリックする。

  ⑦ [YAMAHA DS- XG オーディオドライバ]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

  ⑧ 画面の指示に従ってシステムを再起動する。

### システムのアップデート

システムのアップデートは、Expressワークステーション購入時には自動で適用されていますが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合
- システムの構成を変更した場合（CPUを増設したときなど）

アップデートの手順については20ページを参照してください。

# 3　内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

Expressワークステーションを初めてセットアップするときや再セットアップするときは、購入時の状態でオペレーティングシステムのセットアップをしなければなりません。
Expressワークステーションといっしょに別売の内蔵デバイス（ハードディスクなど）を購入している場合は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから取り付けてください。取り付けに関する詳しい説明については、「ハードウェア編」の「内蔵オプションの取り付け」を参照してください。

**重要**

**CPUを増設したときは、20ページを参照してシステムをアップデートしてください。**
**Windows 2000の場合は、デバイスマネージャの「コンピュータ」のドライバを「ACPIマルチプロセッサ PC」に変更してからシステムをアップデートしてください。**

プリンタなどの周辺機器の接続もオペレーティングシステムのセットアップが完了してから行ってください。Expressワークステーション背面のコネクタには、さまざまな周辺機器と接続することができるコネクタがあります。コネクタの位置と機能、名称については、「ハードウェア編」の「設置と接続」を参照してください。
周辺機器のデバイスドライバや周辺機器が提供するアプリケーションのインストールや設定については、周辺機器に添付の説明書を参照してください。

# 4　障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。



## メモリダンプ(デバッグ情報)の設定　～Windows 2000/Windows NT共通～

Expressワークステーション内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

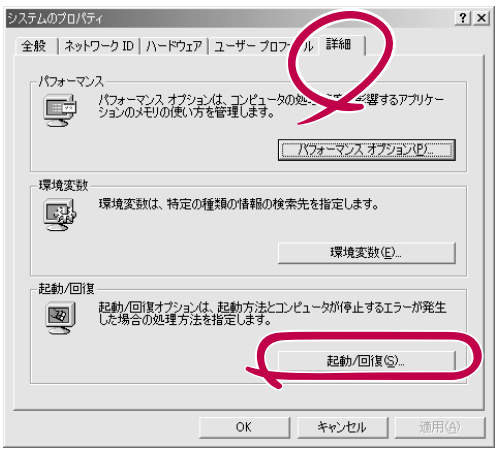
**メモリダンプの注意**

- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

### Windows 2000 Professionalの場合

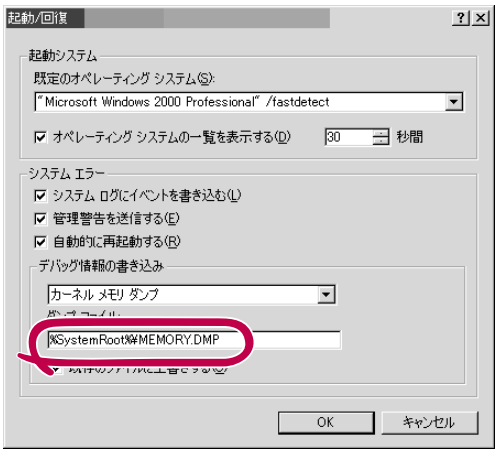
次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細]タブをクリックする。
4. [起動/回復]ボタンをクリックする。



5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。
<Cドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

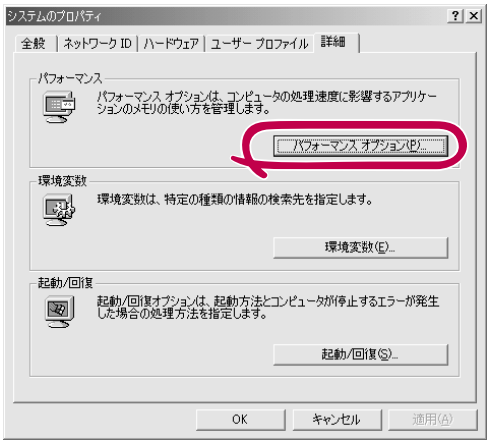
C:\MEMORY.DMP




**重要**

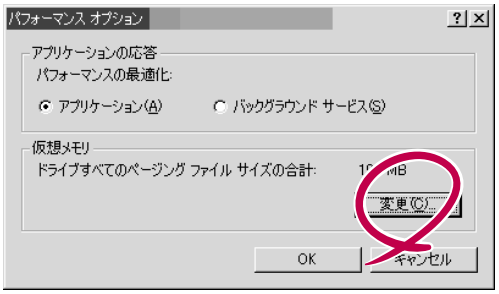
- **デバッグ情報の書き込みは[カーネル メモリ ダンプ]を指定することを推奨します。**
- **Expressワークステーションに搭載しているメモリサイズ+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。**

6. [パフォーマンスオプション]ボタンをクリックする。




7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]ボタンをクリックする。

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]ボタンをクリックする。




**重要**

**ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。**

9. [OK]ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

## Windows NT 4.0 Workstationの場合

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [システム]アイコンをダブルクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [起動/シャットダウン]タブをクリックする。

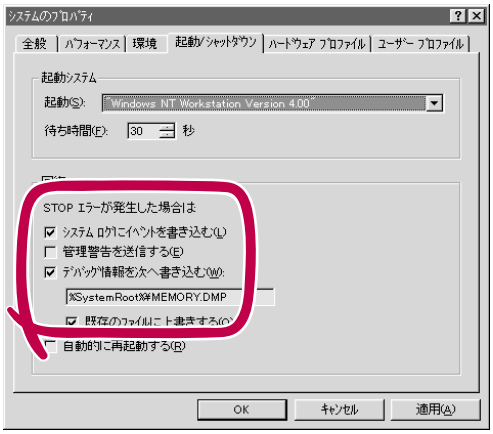
4. [システムログにイベントを書き込む]をチェックする。

5. [デバッグ情報を次へ書き込む]をチェックする。

6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

   <Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

   **D:\MEMORY.DMP**




**重要**

**Expressワークステーションに搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。**

7. [パフォーマンス]タブをクリックする。

8. [変更]ボタンをクリックする。

   [仮想メモリ]ダイアログボックスが表示されます。

9. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]ボタンをクリックする。

**重要**

**ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できません「搭載メモリサイズ」+ 12MB以上を目安に設定してください。**

10. [OK]ボタンをクリックする。

    設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

**重要**

**設定後、障害が発生してシステムが再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。**

# ワトソン博士の設定　～Windows 2000/Windows NT共通～

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressワークステーションを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

**ヒント**

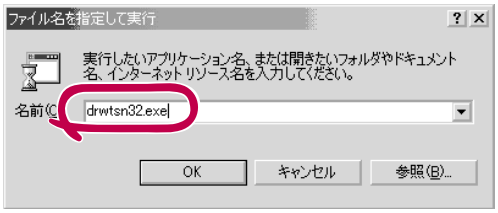
**ワトソン博士の設定は、Expressワークステーション購入時、および再セットアップ時に自動的に設定されています。**

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

   ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。

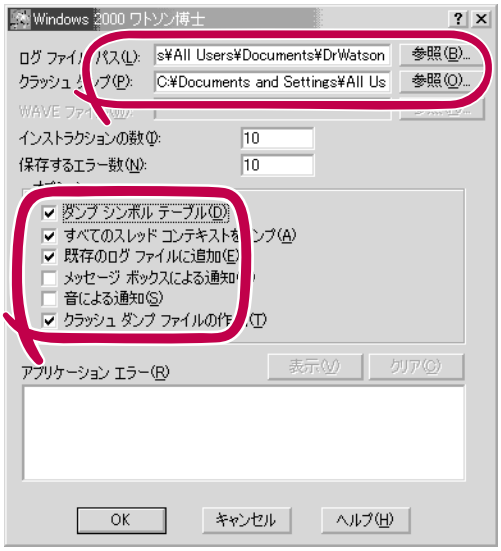
<Windows 2000での表示例>




3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

<Windows 2000での表示例>




**チェック**

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

**ヒント**

**「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。**

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

   - □ ダンプシンボルテーブル
   - □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   - □ 既存のログファイルに追加
   - □ クラッシュダンプファイルの作成

6. [OK]ボタンをクリックする。

# システム修復情報の更新　～Windows NTのみ～

オペレーティングシステムのデータが破損した場合にそなえて、システムの修復が行えるようにするためにシステム構成を変更したら、必ず「システムのアップデート」とともに「システム修復情報の更新」をしてください。システム修復情報にはコンフィグレーションファイルやレジストリファイルなどがあります。

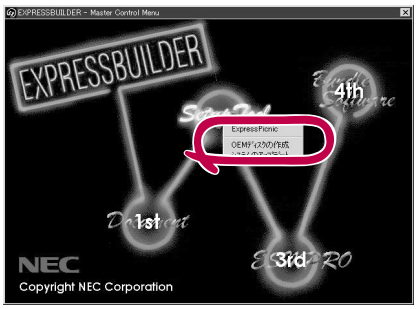
**ヒント**

**システム修復情報はフロッピーディスクにも保存できますが、アプリケーションのインストールなどでレジストリが大きくなった場合、1枚のフロッピーディスクでは保存しきれなくなることがあります。**
**この場合、修復ディスクは正しく作成されませんが、正しく作成されなかったことを報告するようなメッセージは表示されません。**
**Windows NTでは、ハードディスク上にある修復情報を見て、システムの修復ができるので、特に修復ディスクを作成する必要はありません。**

**チェック**

システムの修復を行う場合に「Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクをセットするよう要求される場合があります。ディスクは、EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」の[OEMディスクの作成]、またはEXPRESSBUILDERからExpressワークステーションを起動して、[ツール]メニューから作成することができます(すでに作成している場合は、作成し直す必要はありません)。詳しくはソフトウェア編を参照してください。

<マスターコントロールメニューでの表示例>



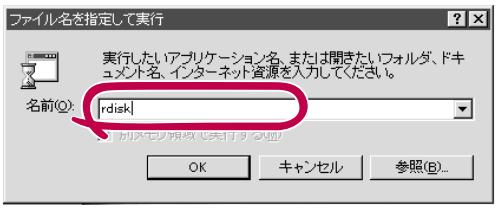

**重要**

- **「システム修復情報の更新」はシステムに障害が発生し、起動しなくなったときにシステムが起動できるように復旧することを目的としています。「システム修復情報の更新」はシステムのバックアップを目的としたものではありません。**
- **運用中にシステムやコンポーネントを変更した場合にも以下の手順で「システム修復情報の更新」を行ってください。**

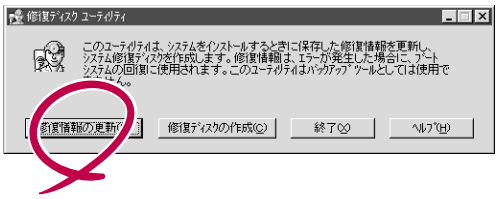
1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「rdisk.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

   [修復ディスクユーティリティ]ダイアログボックスが表示されます。




3. [修復情報の更新]ボタンをクリックする。



4. [はい]ボタンをクリックする。

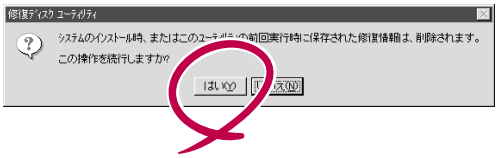
   「システム修復ディスクを作成しますか？」というメッセージが表示されます。

   > **チェック**
   > OSのインストール後、ハードウェアの設定をシングルCPUからマルチCPUに変換した場合に、システムのアップデートを行うと、1回目のみService Packは強制的に適用されます。

5. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[はい]ボタンをクリックする。

   構成ファイルがフロッピーディスクにコピーされます。コピー後、[修復ディスクユーティリティ]ダイアログボックスに戻ります。

6. [終了]ボタンをクリックする。




## セットアップブートディスクの作成

「セットアップブートディスク」は、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損し、再起動できなくなった場合、このフロッピーディスクから起動し、システムを修復することができます。あらかじめ作成しておくことをお勧めします。
作業を始める前に1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスクを用意してください。

- Windows 2000の場合: 4枚
- Windows NTの場合: 3枚

以下の手順でセットアップブートディスクの作成を行います。

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。

2. エクスプローラからセットアップブートディスクを作成する実行ファイルを実行する。

   Windows 2000の場合: C:\BOOTDISK\MAKEBT32.EXE
   Windows NTの場合: C:\I386\WINNT32.EXE/ox

   「C」はシステムドライブを指定してください。

3. コピー先のフロッピーディスクドライブを指定した後、表示されるメッセージに従ってセットアップブートディスクを作成する。

   以下のフロッピーディスクが作成されます。

   Windows 2000の場合:
   - Windows 2000 Setup Boot Disk
   - Windows 2000 Setup Disk #2
   - Windows 2000 Setup Disk #3
   - Windows 2000 Setup Disk #4

   Windows NTの場合:
   - Windows NT 4.0 Setup Boot Disk
   - Windows NT 4.0 Setup Disk #2
   - Windows NT 4.0 Setup Disk #3

4. **<Windows 2000の場合のみ>**

「C:\BOOTDISK\TXTSETUP.SIF」をWindows 2000 Setup Boot Disk にコピーする。

「C」はシステムドライブを指定してください。

以上で完了です。

**重要**

- **作成したセットアップブートディスクは、ラベルを貼って大切に保管してください。**
- **システムの修復方法は「運用・保守編」を参照してください。**



# 5 管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpressサーバ・ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。

ヒント

**詳細については、「ソフトウェア編」の「Express 本体用バンドルソフトウェア」、または装置に添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。**

**また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。**

重要

**再セットアップを行ったときは、個別にインストールしてください。**

# 6　システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressワークステーションのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。

   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. 「ツール」ー「オフライン保守ユーティリティ」を選ぶ。
4. 「システム情報の管理」から「退避」を選択する。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

# 再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなくなった場合などに添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。



ヒント **再セットアップをする前にシステムの修復を試してみてください。詳しくは「運用・保守編」をご覧ください。**

再セットアップは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のメニューから起動します。[シームレスセットアップ]をクリックすると、OSの再セットアップを開始します。

重要
- **「シームレスセットアップ」を実行するとハードディスク内の各種ユーティリティやユーザー情報が失われます。**
- **再セットアップできるオペレーティングシステムはそれまで使用していたオペレーティングシステムです(Windows 2000かWindows NT 4.0のいずれか)。前回と異なるオペレーティングシステムをインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入してください。**

## 再セットアップの準備

作業を始める前にディスプレイ装置を除く周辺機器のケーブルをExpressワークステーションから取り外してください。

重要 **再セットアップを確実にするためにExpressワークステーション内部に増設したデバイス(ハードディスクなど)も取り外して購入時の状態にしておくことをお勧めします。特に、ハードディスクは購入時の台数、接続状態にしておくことをお勧めします。ただし、CPU、および増設メモリ(Windows NT 4.0を再セットアップする場合は3GBまで)は再セットアップ前に取り外す必要はありません。**

再セットアップに必要なディスクは次のとおりです。

- □ EXPRESSBUILDER(CD-ROM)
- □ バックアップCD-ROM(Disc1、2)
- □ セットアップパラメータFD(または1.44MBフォーマットの3.5インチフロッピーディスク1枚)

ヒント **セットアップパラメータFDを使うと再セットアップの際に選択するさまざまな項目をスキップして前回と同じ設定で自動的にセットアップすることができます。**

# 再セットアップの開始

以下の手順で再セットアップを始めます。

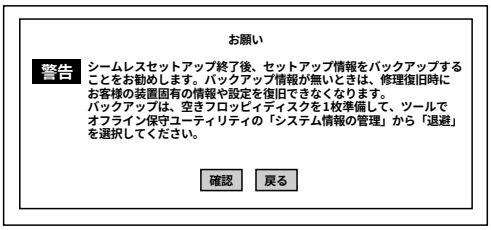
1. EXPRESSBUILDER CD-ROMで起動する。

2. [シームレスセットアップ]をクリックする。

   「お願い」が表示されます。

3. 記載内容をよく読んでから[確認]ボタンをクリックする。

   「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。




4. セットアップパラメータFD、または1.44MBフォーマット済のブランクフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして[確認]ボタンをクリックする。

> **チェック**
> ライトプロテクトはしないでください。

**[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]**

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。

> **チェック**
> 選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような誤りがある場合（たとえばExpressPicnic Ver.3以前において作成した「Picnic-FD」をセットしているときなど）、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクが正しいか確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は［確認］ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、［ｽｷｯﾌﾟ］ボタンをクリックする。

**重要**

**オペレーティングシステム（OS）の選択では、前回使用していたOSを選択してください。前回使用していたOS以外のOSをインストールすることはできません（たとえば、前回はWindows NT 4.0 Workstationを選択してインストールしたが、今回はWindows 2000 Professionalをインストールしたいなど）。前回使用していたOS以外のOSをインストールするためには別途インストールしたいOSを購入してください。**

<Windows 2000 Professionalを選択したセットアップ情報ファイルの場合>

［確認］ボタンをクリック　→次ページの手順1へ進む
［ｽｷｯﾌﾟ］ボタンをクリック　→次ページの手順2へ進む

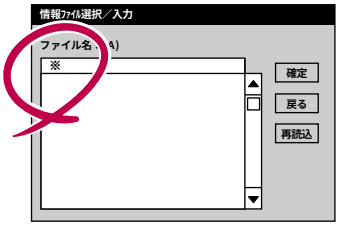
<Windows NT 4.0 Workstationを選択したセットアップ情報ファイルの場合>

［確認］ボタンをクリック　→38ページの手順1へ進む
［ｽｷｯﾌﾟ］ボタンをクリック　→38ページの手順2へ進む

**［ブランクディスクをセットした場合］**

① リストボックスの「※」をクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

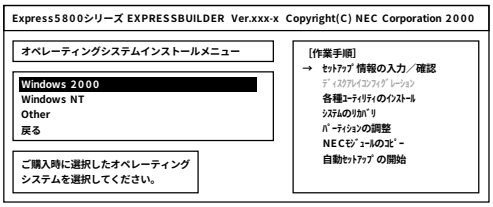



② ファイル名を入力する。

［オペレーティングシステムインストールメニュー］が表示されます。

③ 前回使用していたオペレーティングシステムを選択する。

［Windows 2000］か［Windows NT］のいずれかを選択してください。




［Windows 2000］を選択　→次ページへ進む
［Windows NT］を選択　→38ページへ進む

**重要**

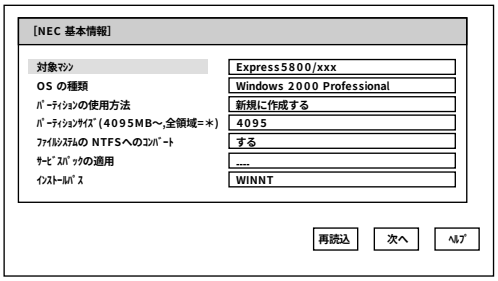
**オペレーティングシステム（OS）の選択では、前回使用していたOSを選択してください。前回使用していたOS以外のOSをインストールすることはできません（たとえば、前回はWindows NT 4.0 Workstationを選択してインストールしたが、今回はWindows 2000 Professionalをインストールしたいなど）。前回使用していたOS以外のOSをインストールするためには別途インストールしたいOSを購入してください。**

# Windows 2000 Professionalの再セットアップ

33ページの「再セットアップの開始」でMicrosoft Windows 2000 Professionalを選択した場合のセットアップ手順と注意事項について説明します。

1. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

   [NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。




**重要**

- **「パーティションの使用方法」は「新規に作成する」で固定です。変更できません。**
- **「パーティションサイズ」で設定できる値は「4095MB」～「999999MB」です。**
- **「パーティションサイズ」で「4095MB」以外の値を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。**
- **「インストールパス」の設定は「winnt」で固定です。変更できません。**
- **ネットワークの設定はできません。以下の状態でセットアップされます。**
  - **TCP/IP(DHCP使用)**
  - **SNMPサービス(デフォルト設定)**
- **設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。**
- **前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。**

**ヒント**

**[NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。**

設定を完了すると自動的に再起動します。再起動後、次のメッセージが表示されます。

| 「バックアップCD-ROM Disc1」をCDドライブに挿入してください。 |
|---|

2. バックアップCD-ROM Disc1をCD-ROMドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。

   画面が切り替わり、Windows 2000再セットアップを開始します。
   再セットアップの途中で次のメッセージが表示されます。

| Insert next media and press enter to continue... |
|---|

3. バックアップCD-ROM Disc2をCD-ROMドライブにセットする。

4. CD-ROMドライブのアクセスランプが消灯してから[OK]ボタンをクリックする。

> **チェック**
>
> アクセスランプが消灯する前に[OK]ボタンをクリックすると、読み込みエラーのダイアログボックスが表示されます。アクセスランプが消灯したことを確認してから[Retry]ボタンをクリックしてください。

次のメッセージが表示されます。

```
EXPRESSBUILDER CD-ROMを
CD-ROMドライブに挿入してください。
```

5. バックアップCD-ROM　Disc2をCD-ROMドライブから取り出して、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

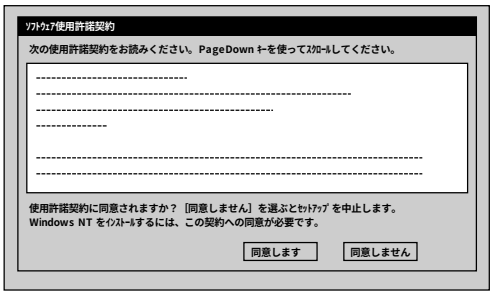
再起動後、引き続きオペレーティングシステムのセットアップを行います。

6. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出して[OK]ボタンをクリックするか、<Enter>キーを押す。

[ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約]画面が表示されます。

7. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。

> **重要**
>
> **同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。**




[Windows2000へようこそ]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

8. 本体標準装備のデバイスドライバのインストールやアップデートをする。

17ページの「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ」を参照してください。

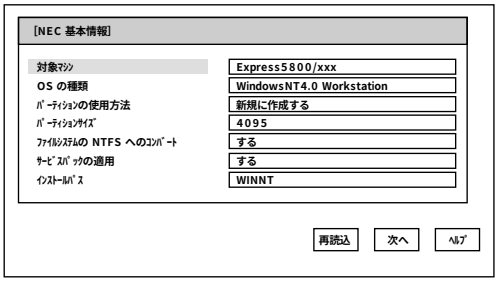
以上でWindows 2000のシステムが再セットアップされました。24〜32ページを参照してセットアップを完了してください。

# Windows NT 4.0 Workstationの再セットアップ

34ページの「再セットアップの開始」でMicrosoft Windows NT 4.0 Workstationを選択した場合のセットアップ手順と注意事項について説明します。

1. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

   [NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。




**重要**

- **「パーティションの使用方法」は「新規に作成する」で固定です。変更できません。**
- **「パーティションサイズ」で設定できる値は「4095MB」か「8000MB」のいずれかです。**
- **「パーティションサイズ」で「8000MB」を指定したときはNTFSにファイルシステムをコンバートしなければいけません。**
- **「インストールパス」の設定は「winnt」で固定です。変更できません。**
- **設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。**
- **前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。**

**ヒント**

**[NEC基本情報]画面にある[再読込]ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]ボタンは、[NEC基本情報]画面にのみあります。**

設定を完了すると自動的に再起動します。再起動後、次のメッセージが表示されます。

```
「バックアップCD-ROM Disc1」をCDドライブに挿入してください。
```

2. バックアップCD-ROM Disc1をCD-ROMドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。

   画面が切り替わり、Windows NT 4.0 Workstation再セットアップを開始します。
   再セットアップの途中で次のメッセージが表示されます。

```
Insert next media and press enter to continue...
```

3. バックアップCD-ROM Disc2をCD-ROMドライブにセットする。

4. CD-ROMドライブのアクセスランプが消灯してから[OK]ボタンをクリックする。

**チェック**

アクセスランプが消灯する前に[OK]ボタンをクリックすると、読み込みエラーのダイアログボックスが表示されます。アクセスランプが消灯したことを確認してから[Retry]ボタンをクリックしてください。

次のメッセージが表示されます。

```
EXPRESSBUILDER CD-ROMを
CD-ROMドライブに挿入してください。
```

5. バックアップCD-ROM　Disc2をCD-ROMドライブから取り出して、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

   再起動後、引き続きオペレーティングシステムのセットアップを行います。

6. Update媒体のモジュールをコピーする。

   メッセージに従ってインストールするUpdate媒体をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

**ヒント**

**[Update媒体の適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。**

**チェック**

「Update媒体」とは、弊社が発行する不具合吸収用のフロッピーディスクのことです。適用すべき媒体がありましたら、予防保守のため適用してください。なければ必要ありません。

7. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブから、セットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出す。

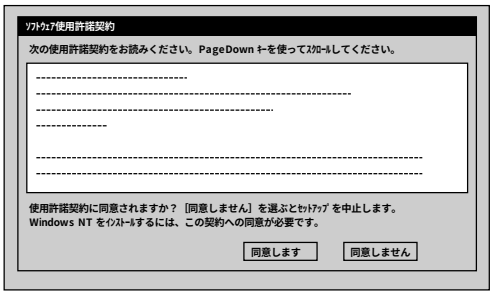
8. 「サービスパック」のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

**ヒント**

**[ｻｰﾋﾞｽﾊﾟｯｸの適用]で「しない」を選択した場合は、スキップされます。**

[ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約]画面が表示されます。

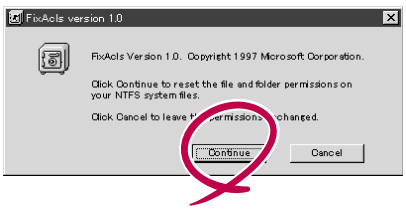
9. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]ボタンを、同意しない場合は、[同意しません]ボタンをクリックする。




**重要**

- **同意しないと、セットアップは終了し、Windows NTはインストールされません。**
- **ファイルシステムをNTFSにコンバートした場合**

  **ファイルシステムをNTFSにコンバートしたときは、必ずAdministrator権限を持ったユーザでログオンしてください。また、ログオン後に[FixAcls version 1.0]ダイアログボックスが表示されます。必ず、[Continue]ボタンをクリックしてください。**



[WindowsNTへようこそ]ダイアログボックスが表示されたら、インストールは完了です。

チェック

Windows NT 4.0 へはローカルのadministratorとしてログオンします。

**10.** 本体標準装備のデバイスドライバのインストールやアップデートをする。

23ページの「デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ」を参照してください。

以上でWindows NT 4.0 Workstationのシステムが再セットアップされました。24〜32ページを参照してセットアップを完了してください。